

誰にでも起こり得る“認知症”を知ろう



「もしも、親や身近な人、あるいは自分自身が認知症になったらどうしよう…」と不安に感じたことはありませんか？

認知症は、誰にでも発症する可能性がある症状ですが、必要以上に恐れる必要はありません。正しい知識を身に付けましょう。

閩福祉課 高齢者支援係 ☎ 286 - 3114

認知症とは…

認知症とは、記憶力や判断力など、脳の機能が正常に働かなくなり、日常生活に支障を来している状態のことをいいます。

年齢を重ねれば誰でも、思い出したいことがすぐに思い出せなかったり、新しいことを覚えるのが困難になったりしますが、認知症は、このような加齢による物忘れとは違います。例えば、体験したこと自体を忘れてしまったり、物忘れの自覚がなかったりする場合は、認知症の可能性がありません。

なお、認知症というのは病名ではなく、病気などさまざまな原因で発症する症例の総称で、発症の過程により分類されています。その原因別の割合を円グラフで示しています（図1）。

また、厚生労働省が実施している国民生活基礎調査の令和元年の結果によると、認知症は、介護が必要になる原因の第1位となっており、誰もがいずれ認知症になる可能性があるということを知っておきましょう。

認知症の原因で一番多いのはアルツハイマー病

アルツハイマー病

アルツハイマー病という言葉聞いたことはありませんか？アルツハイマー病とは、脳神経細胞が少しずつ死滅し、脳全体が縮んでいく病気で、認知症の原因疾患として最多を占めています。この病気により発症する認知症を「アルツハイマー型認知症」といいます。

さらに、高齢になるほど、血管性認知症など、他の原因と合併して発症するようになります。

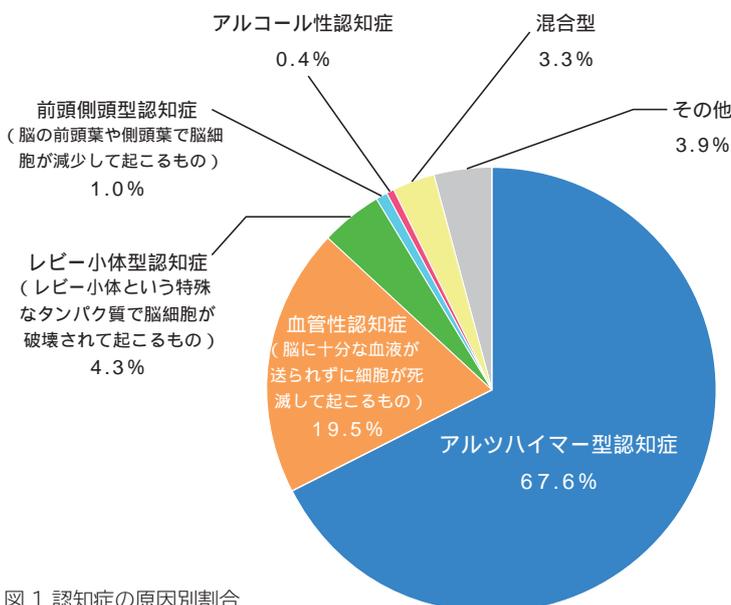


図1 認知症の原因別割合
(「都市部における認知症有病率と認知症の生活機能障害への対応」(厚生労働科学研究成果データベース)を元に作成)